

禪學研究部員諸君に告ぐ

神 保 如 天

長い歴史と傳統とを有する我が駒澤大學學友會が茲に發展的解消をして、現代日本の非常時局に即應して高度國防體制の建設と大政翼賛、臣道實踐に堪ふる人材鍊成の目的を以て駒澤大學報國團を結成するに至つた。從來六學會の一として専門部佛教科の在學生を以て組織されてゐた實踐宗乘研究會も亦從つて發展的解消をして報國團の内の行學本部に屬する禪學研究部といふ名稱に改つた。實踐宗乘研究會は専門部佛教科が本學に創設せられた當初、岡田教授が専門部長として此の佛教科を指導せられ、且つ當時の在學生の發起に依つて此の會が誕生し岡田部長が初代會長として多大の力を盡され、次に保坂教授が専門部長とならるゝや第二代の會長として大いに發展に盡力せられた。代々の幹事役員の努力と會員の熱心なる努力に依つて六學會中に於ても斬然頭角を抜くの隆盛を見るに至つた。予の乏しさを以て専門部長の任に就くや第三代の會長として聊か微力を致し來つた關係からして今度改組せられた禪學研究部の部長として續いてお世話をする事になつた譯である。

本學に専門部佛教科の創設せられた目的は恐らく禪學の研究と同時に宗乘實踐即ち行解相應の人師を養成するにあつたことと思ふ。換言すれば我が兩祖の宗乘を實參し實究して以て行の佛法として日々の行持を行持するに在るとい

つてよからう。此の目的を達成する爲に學生も亦協力一體となり研究と實踐とに全能力を擧げ來つて茲に此の發展を見るに至つたものである。これを思ふと創立當初からの會長先生方の御盡力先輩諸君の苦心經營に對して大いに感謝の意を表せねばならぬ。

今回實踐宗乘研究會の會名は消えて無くなつたやうであるが其の名は禪學研究部として更生したのである。團の原則からいへば報國團員は何人でも、例へば學部の學生でも、豫科或は高等師範部の生徒でも自由に此の部に入つて禪學の研究を爲し得るのであつて、決して禪學研究部は專門部佛教科生徒の專有では無いのである。然し此で誤解をしてはならぬ、專門部佛教科の諸君は禪學研究部は自分等のもので無いといふやうな考を持つてはならないことである。何となれば歴史ある實踐宗乘研究會といふものが有つたればこそ報國團の内に禪學研究部といふものが儼然として其の位置を確保したのである。只名が改つたこと、從來の鎖國主義的なのが開港通商を許したといふほどの相違で、禪學研究部の主體はどこまでも專門部佛教科にあるのである。謂はゞ先輩の努力に依つて發展した實踐宗乘研究會は更に大いに門戸を開いて全學の報國團員を收容する域までに躍進したと考へた方が好いのである。禪學研究部は全く實踐宗乘研究會の精神と精神とするものであり、其の生命を生命とするものである。故に專門部佛教科に在學する生徒諸君は必ず此の禪學研究部の部員となり一致團結して此の部を發展せしめ隆昌ならしめて、專門部佛教科に入學したところの所期の目的を達成することに努力してもらひ度いものである。

いづれの部といへども必要ならざるなく又重要ならざるものはない。中に就いて禪學研究部は特に重大使命を荷ふてゐる。此の部の盛衰は本學の興廢に關するといつてもよろしい。此の部員たる者の責任は極めて重大であることを知らねばならぬ。従つて此の部を盛んならしめることは報國團を盛んならしめることであり、本學を盛んならしめる

ことである。こゝに職域奉公があり、行學一如の理想も達せられ、皇國民としての鍊成も成し遂げられるものと思ふ。予も亦微力ながら行學本部長として又禪學研究部長として挺身以て其の任を全ふ致し度いと冀つてゐる。どうか各部長副部長先生方の御協力と部員諸君の御支持とを切に希望する次第である。(禪學研究部第一回總會に於ける訓示筆記)